

第3次鶴岡市地球温暖化対策実行計画（事務事業編） 2020年次報告書

1. 計画概要

平成30年（2018年）4月に策定した第3次鶴岡市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）（以下、『計画』といいます。）の概要は以下の通りです。

(1) 計画期間

2018年～2030年（13年間）

(2) 計画目標

計画目標は以下の通りです。

（排出量単位：t-CO₂）

	基準	短期目標	目標
年	2013	2022	2030
排出量	43,084.4	37,914.3	25,850.6

2. 温室効果ガスの算定方法

(1) 対象の温室効果ガス

計画で対象としている温室効果ガスは以下の通りです。

対象	説明
二酸化炭素 (CO ₂)	エネルギー起源：電気の使用や暖房用灯油、自動車用ガソリンなどの使用により排出される。排出量が多いため、温室効果ガスの中では温室効果への影響が大きい。 非エネルギー起源：廃棄物の焼却などにより排出。
メタン (CH ₄)	自動車の走行や燃料の燃焼、一般廃棄物の焼却、廃棄物の埋め立て、終末処理場等による下水等処理、稲作、家畜の腸内発酵などにより排出。
一酸化二窒素 (N ₂ O)	自動車の走行や燃料の燃焼、一般廃棄物の焼却、終末処理場等による下水等処理などにより排出。

(2) 算定方法

地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき算定を行います。

グラフや表内の数値は、四捨五入の関係で合計が合わない場合があります。

3.温室効果ガスの排出状況

(1) 2020 年度温室効果ガスの排出量

2020 年度の温室効果ガス排出量は以下の通りです。

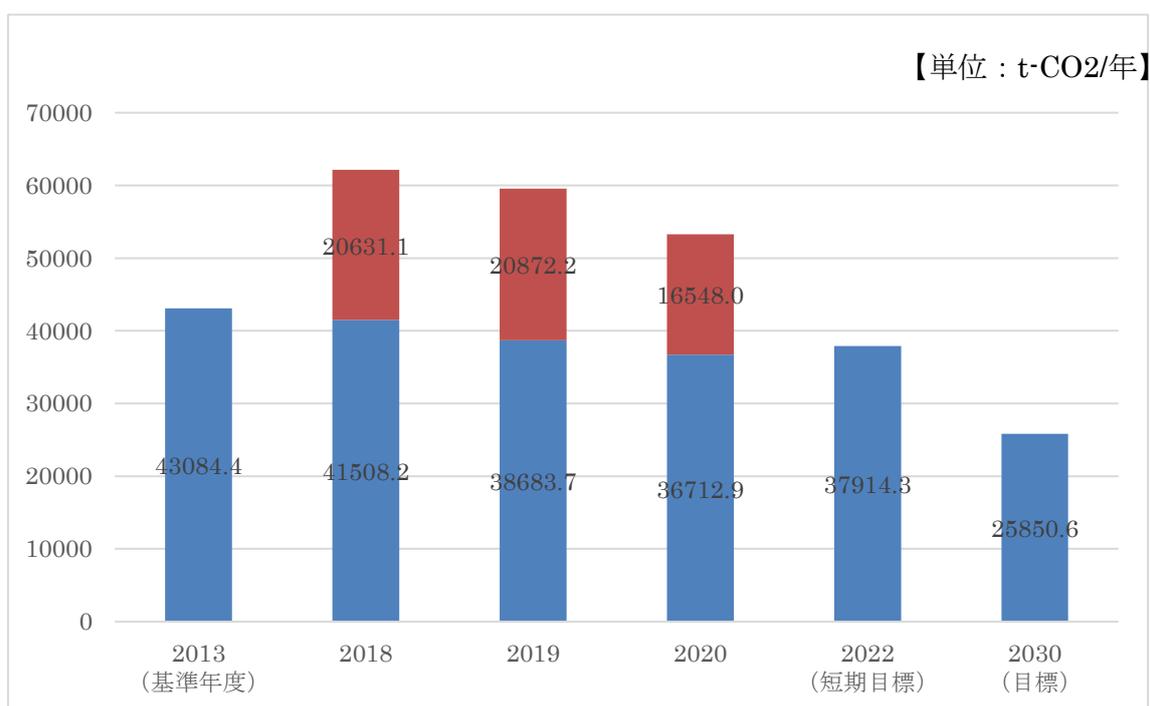
	2020 年度		2019 年度		前年度比 (1) / (2)
	t/年	t-CO2/年 (1)	t/年	t-CO2/年 (2)	
CO2	51,696.8	51,696.8	57,785.0	57,785.0	0.8946
CH4	12.7	316.3	12.4	311.2	1.0165
N2O	4.2	1,247.8	4.9	1,459.8	0.8548
合計	-	53,260.9	-	59,556.0	0.8943

温室効果ガス排出量の割合 (t-CO2 換算) としては、CO2 が全体の 97.06% を占め、次いで N2O が 2.34%、その後 CH4 が 0.59% となっております。

2020 年度は 2019 年度より温室効果ガスを 10.57 %削減できました。

(2) 計画目標の達成状況

計画目標の達成状況は以下の通りです。



基準年度等と比較して大幅に増加している原因は、一般廃棄物の焼却や終末処理場等による下水等処理時における温室効果ガスの排出量（上グラフにおける赤い部分、3. (3) 表内の黄色着色箇所）を追加したためです。計画では、『市が行うすべての事務・事業』を対象としているため、計画の中間見直し時に基準年度や目標の数値については修正を行います。

(3) エネルギー等内訳

エネルギー等の内訳については以下の通りです。

温室効果ガス排出量の割合（t-CO₂換算）としては、電気が全体の48.36%を占め、次いで一般廃棄物の焼却が29.40%、その後都市ガスが8.93%、灯油が5.07%となっております。

エネルギー等	単位	使用量等	合計						前年度比 2020/2019	
			t-CO ₂	CO ₂		CH ₄		N ₂ O		
				t-CO ₂	kg-CH ₄	t-CO ₂	kg-N ₂ O	t-CO ₂		
ガソリン	L	145,044.8	336.5	336.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8729	
灯油	L	1,082,358.4	2,702.4	2,695.1	172.1	4.3	10.3	3.1	0.9554	
軽油	L	275,708.0	711.3	711.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9680	
A重油	L	730,744.9	1,980.6	1,980.3	0.0	0.0	1.0	0.3	1.0524	
LPG	kg	148,802.9	447.1	446.4	22.9	0.6	0.5	0.1	0.9176	
都市ガス	m ³	2,092,152.7	4,758.4	4,747.8	372.5	9.3	4.6	1.4	1.1387	
電気	kWh	56,433,410.7	25,755.2	25,755.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9145	
し尿処理施設	m ³	25,050.1	30.7	0.0	951.9	23.8	23.3	6.9	0.9641	
終末処理場	m ³	12,073,088.6	841.3	0.0	10,624.3	265.6	1,931.7	575.6	1.0271	
浄化槽	月*人槽	8,820.0	15.9	0.0	433.7	10.8	16.9	5.0	0.6282	
一般廃棄物	t	37,583.3	15,660.1	15,024.2	35.7	0.9	2,131.0	635.0	0.7832	
公用車走行距離	km	2,650,512.1	21.2	0.0	38.3	1.0	67.8	20.2	0.9494	
			53,260.9	51,696.8	12,651.4	316.3	4,187.1	1,247.8	0.8943	

2019年度と比較すると2020年度は10.57%もの温室効果ガス排出量を削減できました。削減に関係する主な要因は、電気の使用量は微増したものの、排出係数の小さい電気事業者への切り替えが進んだことや、一般廃棄物の排出量が減少したことです。

更なる温室効果ガスの排出量削減に向け、省エネルギー機器・再生可能エネルギー機器の導入、化石燃料ではなく電力を使用する設備への切り替えと再生可能エネルギー比率が高い（排出係数の小さい）電気事業者へのシフトや、一般廃棄物の焼却量を削減できるようにごみの分別・資源化の徹底などを推進してまいります。